

不揃いの木を組む

— 時代を超えて受け継ぐ技と心 —

◆ 講師 / 小川 三夫 (堂宮大工棟梁)



(撮影 タカオカ邦彦)



◆ 日 時 ◆

平成26年1月11日(土)

午後2時~4時 ※午後1時30分より受付・開場

◆ 場 所 ◆

名古屋都市センターホール

(名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル11階 まちづくり広場)

定員150名

参加費
無料

■ 主催 / 公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

■ 後援 / 名古屋市

お問い合わせ 名古屋都市センター企画課 TEL 052-678-2212(月曜休み) FAX 052-678-2210 URL <http://www.nui.or.jp>

申込方法は裏面をご覧ください。

不揃いの木を組む —時代を超えて受け継ぐ技と心—

歴史的建造物を保存・活用していこうという気運が高まっています。それらを中心に据えてまちづくりを考えようとする事例も多くみられるようになりました。私たちは、古い建物に日本の歴史を知るといふばかりでなく、日本の文化として守り伝えていかなくてはなりません。

そんな中、宮大工（堂宮大工）という職も再び脚光を浴びています。今回、伝説の法隆寺の堂宮大工 西岡常一氏の唯一の内弟子として知られる小川三夫氏をお招きしました。

ばらばらの不揃いのものをうまく組み上げていく、つまり一本一本の木の癖を生かし、時間をかけて組めば千年生きる建物になるのだそうです。人もまた同じとか。

棟梁 小川三夫氏に「技を伝え、人を育てる」理念をうかがいます。



小川三夫氏（撮影 タカオカ邦彦）

●講師プロフィール

おがわ みつお

講師 小川三夫（堂宮大工 棟梁）

- 1947年 栃木県生まれ
- 1977年 「鶴工舎」設立
- 2003年 「現代の名工」に選ばれる
- 2009年 黄綬褒章 受賞



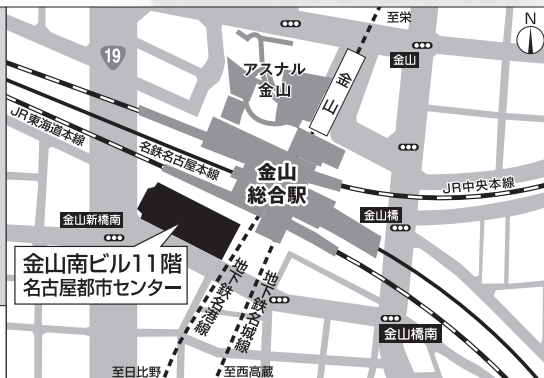
高校生の時、修学旅行で見た法隆寺五重塔に感激し、堂宮大工を志す。21歳で“最後の宮大工”と言われた名工、西岡常一棟梁の唯一の内弟子となる。法輪寺三重塔、薬師寺西塔・金堂の再建で副棟梁を務める。1977年独自の徒弟制度を基礎とした寺社建築専門の建築会社「鶴（いかるが）工舎」を設立。全国各地の寺院の改修、再建、新築等に当たる。総棟梁として現在も活躍。

申込方法（電話・はがき・ファックス・Eメール）

必要事項（郵便番号・住所・氏名・電話番号・メールアドレス・年齢、職業）を明記の上、電話・はがき・ファックス・Eメールでお申し込みください。

名古屋都市センター企画課

〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目 1-1 金山南ビル
 TEL：052-678-2212（月曜休み） FAX：052-678-2210
 Eメール：kouenkai@nui.or.jp



申込締切 12月18日(水)必着

※お申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。
 ※当選者には、ハガキまたは、Eメールにて通知いたします。
 当選ハガキは12月20日(金)に投函します。

参加申込書

FAX 052-678-2210

住所 〒	電話番号 () -	
	メールアドレス ()	
氏名 ふりがな	年齢	職業
.....	歳	

※名古屋都市センター賛助会員の方はチェックをつけて下さい。 法人会員の方は法人名をお書き下さい。

個人会員 法人会員 (法人名)

※申込の際にご記入いただきました個人情報につきましては、当講演会に関してのみ使用させていただきます。

このチラシは古紙パルプを含む、再生紙を使用しています。